

町の生活情報紙  
— IIDE PUBLIC RELATIONS —

# 広報いいいで

5

12, May  
2011  
Vol.1010



写真 / 松原地区の白川公園にこいのぼりをあげた「松原部落むらづくり委員会」の皆さん。左から山口義雄さん、山田孝健さん、舟山忠芳さん、後藤正さん

- 03 特集◎春、気持ち新たに  
消防士・大友貴弘さん
- 04 会社員・井上結香さん、船山沙織さん  
農業・新野真太郎さん
- 06 町消防団長・田辺隆さん  
町国保診療所所長・後藤剛さん
- 08 まちかどNEWS  
緑のふるさと協力隊が本町に着任／農家レストランエル  
ベが避難者を夕食に招待／町消防団辞令交付式
- 10 地区公民館の事業計画  
中部地区・白樺地区・東部地区・西部地区・中津川地区
- 12 第4次飯豊町総合計画の概要
- 14 直伝おふくろの味
- 15 子育てファイル／あ～す図書室情報
- 16 ようこそ！わたしたちの倶楽部に／町長の見て歩き
- 17 あ～すイベント情報
- 18 お知らせ／戸籍の窓／人の動き／編集後記
- 20 町宝いいで ～本長寺の板碑～

## 町のホームページから

# さらに情報を！

町からのお知らせ情報は、  
飯豊町ホームページ [www.town.iide.yamagata.jp](http://www.town.iide.yamagata.jp)  
でも紹介しています。  
知りたい情報は、「検索キーワード」を、ホームページ  
の検索ボックスに打ち込んでください。当該ページへ  
簡単に移動することができます。

こちらのボックスに  
「検索キーワード」を  
打ち込んでください。



## 今月の

## 表紙

### 空に“にぎわい再現” の願いを込めて



4人の息の合った連携で手際よく次々とこいのぼりをあげていきました

4月23日、松原地区の白川公園内に、こいのぼり約35流（りゅう）が、「松原部落むらづくり委員会」の方々によってあげられました。20年以上続いている地域活動で、こいのぼりの大半は地区の人たちが持ち寄ったもの。「隣接するめざみの里観光物産館は、飯豊町の玄関。お客さまに少しでも町をPRすることが目的です」と委員の一人、舟山忠芳さんは、話してくださいました。



the most beautiful  
villages  
in japan

「日本で最も美しい村」連合

飯豊町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。  
これからも美しい景観と里山文化に磨きをかけていきます。



spring  
special  
edition

特集

# 春から町内で新しいスタートを切った人たちを取材 春、気持ち新たに

春は、新生活の始まりの季節。東日本大震災の深い悲しみから気持ちを切り替えて、再び町に目を向けてみましょう。  
4月から町内で就職や要職に就任した人たちに意気込みなどを取材しました。

—human

4月から西置賜行政組合消防本部に入庁

## 故郷を守る仕事に誇りを持って

### 大友貴弘さん

おおもとも・たかひろ●消防士・1991年8月生まれ・川内戸在住

「消防士か、警察官になる」という目標を持ち、大友貴弘さんは高校卒業後1年間、仙台市内の専門学校で学びました。中学、高校と一貫して剣道部に所属し、そこで鍛えた体力と精神力を生かし、人の役に立つ仕事に就きたいと考えたからです。

O t o m o T a k a h i r o

「埼玉真など首都圏の警察も受験しましたが、生まれ育った地元で就職したいという気持ちはずっと強かったです」と大友さんは告白します。仙台市での生活で、その思いはさらに強くなったと言います。「ビルに囲まれたアパートには朝日は差し込まず、どの建物も空調が効いて室内の温

度は一定。それらがとても無機質に感じられ、四季が豊かな飯豊町と比べたとき、自分がずっと住みたい環境は都会ではないと感じました」

地元で就職したいという熱意が実り、大友さんは、今年3月、西置賜行政組合消防本部の消防士に合格しました。

合格の通知が届いて間もなく、東日本大震災が発生。仙台市内の被害状況はもとより、大友さんの関心は、おのずとテレビで報道される消防士たちの活躍でした。被災地での懸命の救助作業や被ばくの危険を顧みず原子力発電所事故に立ち向かう姿を見て、大友さんは「命がけて任務に当っ

ていることを痛感し、ひるむどころか、消防士としての志が高まった」と話します。

現在、大友さんは三川町にある山形県消防学校で研修に励んでいます。訓練のほかにも、消防法や危険物の取り扱い、負傷者への応急手当など学ぶべきことはたくさんあります。空き時間には、仲間と共に体力づくりのトレーニングに汗を流します。

「席を並べる同期生の年齢は異なるけれど、みんな一日でも早く一人前の消防士になりたいと一生懸命な姿勢は一緒。自分もがんばらなければと励みになります」  
消防士を目指したもう一つ

の理由を、大友さんはそっと打ち明けてくれました。それは、「地元の消防団で活躍する父の姿に憧れたこと」。自分たちの地域は自分たちで守るという意志は、父から子へ確実に引き継がれていました。



—human

4月から町内企業に入社

仕事に励み、夢をかなえたい！

井上結香さん

いのうえ・ゆか ● 会社員・1993年1月生まれ・黒沢在住

船山沙織さん

ふなやま・さおり ● 会社員・1992年11月生まれ・漆川在住



写真/左・井上結香さん、右・船山沙織さん

マルコンデンソー株式会社（萩生）は、自動車部品メーカー。ワイパーのコントローラーやドアロックのブザーなどを製造するほか、走行音の静かなハイブリッド車が歩行者に接近を知らせる「車両接近通報装置」といった最先端の技術まで幅広く手がけています。

「自動車部品製造では、県内トップクラスの会社です。高校生のときに会社見学に訪れて、整理整頓された清潔な職場環境が素晴らしいと感じました」

高校卒業と同時に4月からマルコンデンソーに入社した井上結香さんと船山沙織さんは、当社を選んだ理由をそう話します。二人とも卒業後の進路として、都会へ出て勉強しようかとも迷いました。しかし、今の雇用情勢を考え、いち早く安定した企業に就職することが将来に望ましいと考え、決断しました。さらに住み慣れた地元で働くことができ、安心感が大きいと言います。

とはいえ、仕事に厳しさはつきもの。

「繊細な基盤に小さなICチップを組むのはとても慎重さが求められます。ちよつとしたキズが付いただけでも、不良品となってしまう」と船山さん

んは任された仕事への緊張を話します。井上さんも「部品の一つ一つが運転者と同乗者の命にかかわるもの」と話し、表情は真剣です。

また、職場という社会も二人にとっては初めての経験。

「学校では仲の良い友達とだけいけば良かったのですが、職場では、年代の違う先輩方と連携し、助け合って仕事をしなければなりません。少しでも早く仕事をしつかり覚えなければならぬと感じています」

そう話す井上さんは、初めて部品を作ったとき、ベテランの先輩から「うまくいったね」とほめてもらい、うれしく思うと同時に、励みになったそうです。船山さんも「高校生のときは、先生の指示したことさえしていればよかった。でも仕事では、自分で判断し、責任をもって行動しなければいけません」と自覚します。

初めてもらう給料の使い道は、二人とも、ここまで育ててくれた家族に恩返しすること。

「20歳代で結婚して、生まれてくる子どもたちに私が両親にしてみたらよかったようにしてあげたい」と夢を語る船山さん。「そのためにもこの会社で仕事をがんばりたい」と目を輝かせます。

Inoue Yuka ・ Funayama Saori



## Nino Shintaro

「いつか故郷に戻り、父の築いた農業を継ぐと、ずっと胸に抱いていました」。新野真太郎さんは、この4月に就農した心境をそう明かします。農業を職業にと決めたのは、今に始まったことではなく、小学生のころから。「長男ですし、田んぼに立つ父の姿を見て育ってきたから」と新野さんはほほ笑みます。北海道にキャンパスのある東京農業大学生物産学部に進学した新野さんは、農業経営や食品の流通などを学びました。その後上京し、大手の惣菜・弁当販売会社に就職。営業を担当し、店舗の経営管理などを任されていました。

「仕事はハードでしたが、店舗の売り上げが伸びるととてもやりがいを感じた」と6年間の会社員時代を振り返ります。昇進し、収入が安定していたにもかかわらず、会社員生活にけじめをつけたのは、「30歳前に区切りをつけて農業を始めよう」と決めていたから。

多くの品種を作付けする理由を新野さんは、「品揃えのある店にお客さまが集まるように、お米を求めるお客さまも欲しがる米の品種はそれぞれに異なります。要望に応えられなければ、多くのお客さまを失ってしまうことになる」と説明します。

新野さんの目指す「米づくり」はもちろん、「お客さまに喜ばれるおいしいお米」。しかし現実には厳しいと言います。安全性はもちろんのこと、食味の良さだけではなく、価格の手ごる感もなければ売れないからです。

「規模拡大のメリットを生かし、生産コストを下げる努力を続けるしかありません」と新野さん。米価が低迷する一方、ブランド戦略による産地間競争が激化する中で、米生産者は血のにじむような努力が求められています。しかし、そんな苦境の中でもあえて農業に挑んだ新野さん。今、経営者である父の下で生産技術のノウハウの習得に懸命です。

「日本の食料自給率はわずか40%。『食料の時代』が必ず来るはず。そんなとき自然豊かで農村の原風景が残る飯豊町は、高いブランドイメージとなって飛躍すると思うのです」と新野さんの声は弾みます。

—human

4月から新規就農

# 食料の時代、飯豊町の可能性を信じて

## 新野真太郎さん

にいの・しんたろう ● 農業・1981年9月生まれ・漆川在住



—human

## 4月から町消防団長に就任 地域密着の消防活動強化を目指す 田辺隆さん

たなべ・たかし●自営業・1960年9月生まれ、添川在住



「家族を避難させ、その後に使命感を持って津波の前線で任務についた消防団員に敬服せずにはいられません。その一方で、災害時の安全管理の指導を団員に徹底しなければならぬと痛感しました」

東日本大震災で、住民を守ろうと最前線に立った多くの消防団員が尊い命を失ったことに触れ、田辺隆さんは自分の職務の大きさをあらためて感じていました。田辺さんは、今年4月から総勢414名の団員を率いる飯豊町消防団長に就任したからです。

「これまで務めてきた副団長以上に言動と行動に責任が伴い、気が引き締まります」と就任の心境を語ります。

25歳で地元の消防団に入団。本部分団長、副団長を歴任し、岡田美樹雄前団長の勇退に伴い、団長に就任されました。

これまでの消防団活動を振り返り、心に残るのは、第3分団第4部第1班の3番員として町操法大会に出場し、優勝したことです。そして同班は、その大会以降からずっと優勝を続けており、「後輩をとて誇らしく思う」と目を細めます。

田辺さんは、消防団の特性は「地域密着性」、「要員動員力」、

「即時対応力」の三つであり、それらを伸ばすことが重要だと考えています。中でも地域密着性を高めるためには、団員が火災予防・消防活動だけに限らず、地域の運動会や文化祭などに積極的に参加し、地域住民との交流の中で信頼関係を深めることを望んでいます。

その一方、団員に要求するだけではなく、「幹部に限らず、若い団員からも積極的に現状に対する意見を聞く場を設けたい」と話します。そこには、「団員数の減少と組織再編という直面する課題を抱える中、幅広い意見を参考にし、解決の糸口を見つきたいと考えるからです」。

田辺さんは、飯豊町の消防団の誇れるものとして「音楽隊があること」を真っ先に挙げます。「置賜地区では唯一であり、生演奏で演習できるのは、実はすごくぜいたくなことなんです。団員の自信につながればうれいです」と胸を張ります。

消防団長として、住民の皆さんにお願いしたいことは、火の危険性の再認識。「地区に防火水槽ができれば安心と思うのは間違い。火事を起こさない努力が先だからです」と火災予防の呼びかけも忘れません。



# G o t o T s u y o s h i

中学、高校と米沢市に住んでいた後藤剛医師は、飯豊町に着任して「置賜に帰ってきたという気持ち」と表情を緩ませます。後藤医師は、4月から町国保診療所所長および介護老人福祉施設「美の里」施設長に就任されました。

「診察の際、初対面の私に『よろしくお願ひします』と丁寧にあいさつされ、穏やかで優しい人たちというのが飯豊町の第一印象です」

専門は、一般内科と心療内科。これまで山形県中央病院、酒田市立八幡病院、朝日町立病院などで勤務されてきました。「尊重の気持ちを忘れない」をモットーにし、患者のみならず、患者の家族、そして支えてくれるスタッフの気持ちを酌んだ仕事を心がけています。

もともと大学は教育学部に在籍。在学中、入院中の子どもたちに勉強を教えるボランティア活動に従事し、その活動を続けるうち、「自分が治療する側になりたい」と思い、医学部を再受験したという特異の経歴です。「健康づくりには2つの要素があると考えています。一つは『病気を減らしていくこと』。もう一つは『元気を増やしていくこと』です」と後藤医師。健康

診断で指摘のあったものは、早めに治療して病気を減らす一方、元気を増やすため、趣味や友人との会話を楽しんだり心の健康を維持することも大切という持論です。

後藤医師自身、診療所での診察のみならず、介護老人保健施設の運営と診療、産業医、学校医、訪問診察などを一人で受け持ち、「24時間常に気を張っています」と多忙を極めます。そんな後藤医師が「元気を増やす」方法は、週1、2回は通うというプールでの水泳。「泳いでいるときは無心になれるから」です。「もちろん患者さんやご家族からの感謝の言葉も仕事の大きな励みです」とほほ笑みます。国保診療所の役割は「町民の皆さんの医療の入り口」と後藤医師は言います。健康面での悩みがあれば、国保診療所で受診し、必要とあれば総合病院や専門の開業医などへ紹介する「水先案内人」としての役割も大きいです。

「私一人では限界があると思いますが、スタッフの皆さんと協力して、町民の皆さんが安心できる医療を提供していきたいです」と抱負を話してくださいました。

—human

4月から町国保診療所所長・介護老人福祉施設「美の里」施設長に就任  
病気を減らし、元気を増やそう！

## 後藤剛さん

ごとう・つよし●医師・1975年11月生まれ、山形市在住



まちかどニュースは、皆さんの広場です。  
地域のできごとやご意見などお気軽にお寄せください。  
役場総務企画課総務情報室まで ☎72-2111内線225



緑のふるさと協力隊が本町に着任

## 都会の若者が中津川で活動開始

4月11日、NPO法人地球緑化センター(東京都)が派遣する「緑のふるさと協力隊」として、細川由貴さん(浜松市)と牧野美咲さん(金沢市)が本町に着任しました。2人は中津川地区に1年間定住し、農林業や地域活動への参加を通して、地域おこしの提言や都市部への情報発信などを手伝います。後藤町長から委嘱状が交付され、細川さんと牧野さんは共に「山村生活を楽しみにして来ました。積極的に地域の方々と活動していきたいです」と答えていました。

町消防団辞令交付式

## 消防職務遂行の決意



4月10日、消防署飯豊分署で町消防団辞令交付式が行われました。式には、消防団幹部など約20名が出席。副団長に就任した井上和浩さん(高峰)など、異動された団員に田辺隆団長(添川)から辞令が交付されました。また、今年度は16名が新たに入団し、団員の総数は414名となりました。式中、新入団員を代表して後藤龍広さん(椿)が、「誠実かつ公正に消防職務の遂行にあたります」と力強く宣誓されました。

農家レストランエルベが避難者を夕食に招待

## 町の農産物を食べて元気回復



4月9日から22日にかけて、農家レストランエルベでは、東日本大震災で町内に避難されている方約200人を夕食に招きました。メニューは、フキノトウの天ぷらやアスパラ菜のピザ、つや姫のリゾットなど地元の農産物をふんだんに使用。町内の生産者の皆さんから提供をいただき実現しました。料理長の横澤与一郎さんは、「飯豊町のおいしいものを食べて元気を出してください」と声がけされていました。





## 中津川小中学校に新たな仲間が転入学

## 学校生活を盛り上げていきたい

4月から中津川小中学校では、新しい仲間が転入学しました。山村留学生の鹿田真吾くん(埼玉県川口市・小学4年)と東日本大震災により中津川地区に避難している草野洗都くん(福島県飯館村・小学5年)の2人です。また、昨年度から山村留学している野口龍太くん(川口市・中学3年)も、さらに1年間の留学延長を決めました。野口くんは「勉強はもちろんですが、生徒会長として学校生活を盛り上げていけるようにがんばります」と決意を話してくれました。

## わくわく♪おはなし広場

## 親子で楽しいひととき



4月24日、こどもみらい館で「わくわく♪おはなし広場」が開かれました。こども読書週間に合わせ、町民総合センター「あ〜す」図書室が企画。親子連れなど約30人が参加しました。参加者は、手塚娃子さん(萩生)と梅津智子さん(添川)による絵本の読み聞かせを楽しんだほか、新聞紙を使った「かぶと」の工作に挑戦。金太郎の顔を描き、折り紙で飾り付けをするなどして、素敵なかぶとを作り上げていました。

## 男声合唱団プロジェクト「美の里」に慰問

## 施設内に歌声響く



4月17日、男声合唱団プロジェクト(齋藤徹会長・松原)の会員17名が、介護老人保健施設「美の里」を訪れ、施設利用者へ歌のプレゼントをしました。指導者の土屋和彦さん(長井市)は、「皆さんおなじみの曲も歌いますので楽しんで聴いてください」とあいさつ。団員の息の合った歌声が施設いっばいに響きました。「最上川」や「故郷」など7曲を披露し、利用者から大きな拍手が送られていました。



かもしかクラブリーダー委嘱状  
交付式 (役場)



チャリティーエクササイズポ  
ール教室 (白樺地区公民館)



町スポーツ少年団合同入団式  
(町民スポーツセンター)

平成23年度

# 地区公民館の事業計画

地域の活性化と生涯学習の振興を目指して

各地区公民館では、それぞれの地域の特色を生かしながら、地域の活性化と生涯学習の振興を目指した事業を展開しています。

ここでは、平成23年度の事業計画の中から主なものを抜粋して紹介していますが、そのほかにも幅広い年齢層に合わせた様々な事業が計画されていますので、ぜひ多くの住民の皆さんが参加し、地区公民館を中核として地域を盛り上げていきましょう。



## 中部地区公民館

地域のコミュニティづくりの拠点として捉え、地域住民主体の運営活動を支援し、創造的ににぎわいのある地域づくり、健康づくり、さらにはまちづくりを目指します



新野由希子 嘉藤幹夫 船山吉丸

### スタッフ

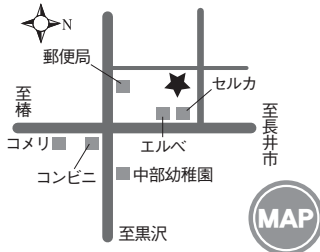
**公民館長**  
嘉藤幹夫（萩生）  
**運営委員会事務局職員**  
船山吉丸（中）  
新野由希子（中）

### 連絡先

大字萩生3548  
TEL72-2126  
FAX72-3550  
✉tyubuko@e.jan.ne.jp

### 主な事業計画

事業	内容	時期
かかし祭り	子ども会育成会、分館、各地区協議会など地域の各団体からの出展を通し、協同作業の教育を実践。	8月20日～ 初日がイベント日
しろあと教室（高齢者教室）	研修会、ボランティア、かかし祭り参加、作品制作、グラウンドゴルフ大会、しろあと文集制作など。	年間
婦人学級	研修会、ボランティア、クリスマス会、生け花、茶会、キャンドル作り、かかし祭り出展、文化祭出展など。	年間
ゆり写生大会	ゆり公園にてゆりの写生と審査会・表彰を行う。	7月



## 白樺地区公民館

自主的な学習の推進と生涯学習活動の拠点としての役割の充実を目指します。



川崎てい子 佐原正 鈴木孝

### スタッフ

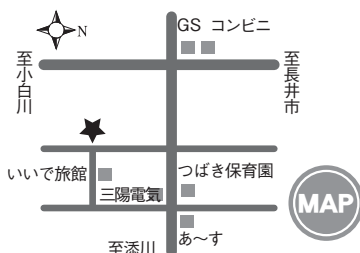
**公民館長**  
佐原正（椿）  
**運営委員会事務局職員**  
鈴木孝（小白川）  
川崎てい子（椿）

### 連絡先

大字椿1902-4  
TEL72-2242  
FAX72-3551  
✉tubakiko@e.jan.ne.jp

### 主な事業計画

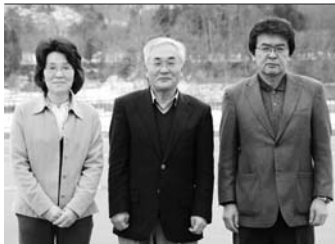
事業	内容	時期
白樺地区新生活運動	ムリ、ムダ、ムラのない地域社会を目指し明るく住みよいまちづくりを分館を拠点に実践する。	年間
白樺地区リサイクル会	環境にやさしい廃油リサイクルせっけんの活用の推進、無農薬野菜作りの推進などに取り組む。	年間
芸術文化	芸術文化に親しみながら教養を高め、心豊かな優れた文化の地区を目指す。文化祭の開催など。	10月下旬
社会体育	健康と体力づくり、地域の連携意識高揚を目指し、スポーツクラブと連携した運動の日常化を図る。	年間



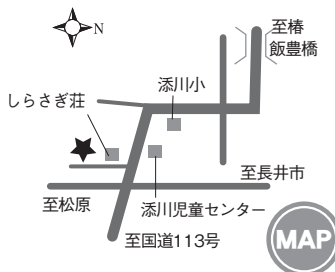


## 東部地区公民館

社会教育活動の拠点として、地区住民の交流を図り、地域民の理解と協力を高めながら、一人ひとりの意識高揚を促し、生涯学習活動の推進を目指します



遠藤節子 齋藤 徹 樋口兼利



### スタッフ

**公民館長**  
齋藤 徹 (松原)  
**運営委員会事務局職員**  
樋口兼利 (添川)  
遠藤節子 (添川)

### 連絡先

大字添川2955  
TEL74-2447  
FAX87-0447  
✉toubuko@e.jan.ne.jp

### 主な事業計画

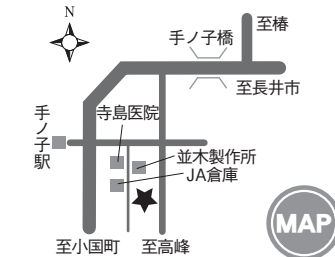
事業	内容	時期
広報活動	地域住民に地域の状況や動きを知ってもらうため、関係団体と協力し「広報とうぶ」を毎月発行。	年間
少年キャンプ	団体生活と野外キャンプの体験により児童の健全な育成を目指す。	7月30日 ～31日
東部地区ふるさと祭り	東部地区全住民の参加のもと世代間の交流はもとより親睦・融和を図り地域の活性化を目指す。	8月14日
チョウセン・アカシジミ観察会	小学生を対象に、地区内外へ観察に出かけ、保護蝶の認識を高める。	年間

## 西部地区公民館

地区民主導の運営を積極的に推進しながら地域の独自性を大切にしながら社会教育・生涯学習の充実、体育・スポーツ・芸術文化の振興を図ります



巻坂恵美子 山口 健 高橋 孝



### スタッフ

**公民館長**  
山口 健 (高峰)  
**運営委員会事務局職員**  
高橋 孝 (高峰)  
巻坂恵美子 (手ノ子)

### 連絡先

大字手ノ子2861-1  
TEL75-2111  
FAX75-2273  
✉seibuko@e.jan.ne.jp

### 主な事業計画

事業	内容	時期
体育スポーツの振興	スポーツを通して地区住民の健康、体力作りを図り交流親睦を深めながら活力のある地域作りを目指す。	随時
婦人教室 さわやかクラブ	学習を通じて広く教養を高めると共に健康で明るい家庭の推進、楽しい仲間づくりを目指す。	年間
ふるさと学園	高齢者の地域社会への積極的な参加と生涯学習に取り組む。また、子どもたちとの交流を通じて地域文化の伝承に努める。	年間

## 中津川地区公民館

地域住民みんなが集い、各年代が意見を交わし、楽しみながら豊かな地域づくりを目指します



伊藤ふみ 大友俊治 高橋 亮



### スタッフ

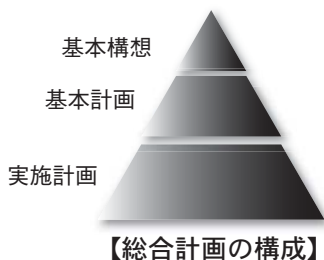
**公民館長**  
大友俊治 (川内戸)  
**運営委員会事務局職員**  
高橋 亮 (白川)  
伊藤ふみ (岩倉)

### 連絡先

大字上原469  
TEL77-2020  
FAX77-2121  
✉apurekou@e.jan.ne.jp

### 主な事業計画

事業	内容	時期
情報の提供活動	地域づくりの多岐にわたる情報の発信基地として定期的な館報「あぶれ」の発行。	随時
地域に根ざす青年・女性団体の活動の推進	積極的に地域づくり活動に参画できる環境づくりや、学習の場を提供。	年間
地区・小中学校合同運動会	「子どもは地域の宝、賑わいの拠点」を合言葉に、さらなる連携を深める。	9月4日 (予定)
生涯学習拠点施設として活用の事業	幼児から高齢者まで施設の活用を推進し、地域の基幹施設としての役割を果たす。	年間



## 第4次飯豊町総合計画の概要

**基本理念** ～共生と自立、そして新たな躍動～  
**将来像** ～田園の息吹が暮らしを豊かにするまち～

# 第4次総合計画が始動 新しい時代へのステップアップへ

第4次総合計画の基本構想が、町議会3月定例会で議決されました。総合計画は、町の長期的なまちづくりの方向を明らかにする指針となるものです。  
 基本構想および基本計画は、平成22年10月に町長から飯豊町振興審議会（齋藤徹会長・松原）へ策定について諮問し、平成23年2月に町長へ答申が出されました。

### 総合計画の構成

第4次飯豊町総合計画は、まちづくりを推進するための基本理念、目指すべき将来像を明らかにする基本構想と、目標や施策の方向などを表した基本計画、具体的な事業を定めた実施計画で構成されています。

なお、現在、地区の将来像と計画を表す地区別計画を各地区において策定していただいております。

### 総合計画の期間

平成23年度から平成32年度までのおおむね10年間とします。

### 基本構想

#### 基本理念

『共生と自立、そして新たな躍動』

#### ■自然との共生

農業や林業など生業の中で守り育てられてきた豊かな自然環境を未来の子どもたちへ引き継ぐため、自然環境と人の暮らしとの共生を

#### 目指します。

#### ■人と人との共生

社会を構成する基礎である家族や地域コミュニティを重要視し、人々の相互扶助や支え合いの精神を大切にし、人と人との共生の視点から、心の豊かさや人のつながりが感じられるまちづくりを目指します。

#### ■住民と行政のパートナーシップ

行政とのパートナーシップのもとに、住民主体のまちづくりを指すには、住民、行政双方に自立性と対等性が求められます。住民が自ら考え実践すること、行政でなければできないことなど、今後のまちづくりは住民と行政が協働で進めるという考え方から、両者の機能が生かされるようなまちづくりの仕組みをつくりまします。

#### ■新たな産業をおこし、自信や誇りにつながるまちへ

飯豊連峰や田園散居集落、飯豊米など地域の素晴らしいものにこ

だわりを持ち、地域資源を活用した新たな産業をおこし、町民の自信や誇りにつながる、誰もが暮らし続けたいと思う笑顔あふれる町を目指します。

### 将来像

『田園の息吹が暮らしを豊かにするまち』

一人ひとりが安心して暮らし、経済的な豊かさだけでなく、農村や自然の豊かさ、ゆとりや潤いといった心の豊かさが実感できるまちを目指します。また、飯豊町の宝である豊かな自然や美しい景観と共生しながら、資源を守り、次世代に引き継ぎます。

自然資源や人々が生きる中で培ってきた景観や歴史、文化、暮らしの知恵などの個性や特徴を生かしたまちづくりを進めることで、町全体の豊かさにつながるという認識のもと、将来像の実現を目指します。

### 問合せ先

役場総務企画課総合政策室

☎72-2111内線226・227





総合計画は、町民の中から選ばれた20名の町振興審議会の委員の皆さんによって審議され、より中身の濃い計画へと練り上げられた

## 計画の基本目標

将来像の実現に向けて次の目標を掲げます。

- 希望をいだき、にぎわいのまちづくりに向かおう
- 環境と循環、歴史と文化を大切にし、明日をひらく産業を築こう
- 人々の活力が地域を支える、あたたかいまちをつくらう

## 基本計画

将来像の実現に向けた基本目標を達成するため、7つの基本計画を掲げ、施策を展開していきます。

- ① にぎわいあふれるまちづくり
  - 人口減少を抑制するため、総合的な定住環境整備を進め、誰もが安心して子どもを生育てられるまち、世代や性別にとらわれず誰もが参画できる住民主体のまちづくりを推進します。
  - 定住環境の整備
  - 子育て環境の整備
  - 住民主体のまちづくり
  - 若者・女性参画のまちづくり
- ② 自然と共生するまちづくり
  - 豊かな自然と美しい景観を保全し、次世代へ引き継ぐため、景観に配慮したまちづくりを進めます。また、環境負荷の少ない循環型社会の形成に向け、限りある資源を有効に活用すると共に、水道や
- ③ 生きがいと笑顔のまちづくり
  - 健康・医療・福祉が一体となり、誰もが住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らし続けられる地域社会づくりを目指します。高齢者や障がい者が生きがいを持って生活できる地域づくりを目指します。
  - 誰でも安心して生活できる地域福祉
  - 健康づくりの推進
  - 地域医療の確保
- ④ 豊かな感性を育むまちづくり
  - 将来を担う子どもたちに充実した教育環境を提供し、個性を尊重した教育を推進します。町民の一人ひとりが充実した生涯を送るための学習機会の提供やスポーツなどの活動促進を図ります。
  - 学校教育の充実
  - 生涯学習活動の推進
  - 生涯スポーツ活動の推進
  - 多様な芸術文化活動の推進
- ⑤ こだわりの産業づくり
  - 農林産物に付加価値をつけた販売や地産地消による地域内での需要拡大、森林資源の活用による飯豊ブランド化を図り、町の基幹産業である農林業の活性化を推進します。農山村の暮らしに根付い

下水道など生活環境の整備を図ります。

- 豊かな自然景観の保全
- 循環型社会の構築
- 快適な生活環境の整備

た産業を継承しながら、新たな仕事づくりを支援します。

- 持続的な農林水産業の振興
- 商工業の振興
- 地域資源を生かした観光・交流の振興
- 新たな仕事づくり

## ⑥ 安全・快適なまちづくり

- 新たな仕事づくり
- 消防、防災、防犯体制の充実を図り、総合的かつ効率的な危機管理対策を進めます。道路網の整備や公共交通の確保はもとより、除雪体制の充実を図り、除雪ボランティアの育成や雪室の活用を促進します。
- 安全・安心のまちづくり
- 交通通信基盤の整備
- 雪に強いまちづくり

## ⑦ 持続可能なまちづくり

- 多様なニーズに対応しながら、町民の視点に立った行財政運営を進めると共に、厳しい財政状況の中、「最小の経費で最大の効果を挙げる」という自治体運営の原則に立ち返り行財政改革や社会情勢などを踏まえながら持続可能な行財政の運営を目指します。町民との協働を進め、各種計画に基づく町民の地域活動を支援します。
- 開かれた行政運営
- 効率的な行政運営

総合計画の全文は、町のホームページでご覧いただけます。

第4次飯豊町総合計画

検索

## 直伝おふくろの味



## 手づくりあめ

砂糖を加えていない、もち米と麴こうじだけの甘味

## 【材料】

◇もち米

◇麴

◇水

◇ゴマ、きな粉など

適宜 200cc 600<sup>μ</sup>g 1<sup>錢</sup>ご

## 【作り方】

- ①もち米はご飯を炊くときと同じ水の量で炊く。
- ②炊き上がった①に水200ccを入れ、人肌程度になるまで冷めます。
- ③②に麴を入れ、炊飯器で半日ほど保温する。
- ④③をさらに常温で1日置き、麴がなじんだところで、こす。
- ⑤こしたものをあめ状になるまでかき混ぜながら煮詰める。
- ⑥⑤を少し冷ましてから、食べやすい大きさに切る。好みでゴマやきな粉をまぶして出来上がり。

### 囲炉裏を囲んで作った懐かしい「家族団らんの味」です



中津川地区  
食生活改善推進員  
横山みよのさん

私の祖母や母が作ってくれた昔懐かしい手づくりあめです。甘いものがまだ手に入りにくかった時代、残った甘酒を使い、囲炉裏を囲んだ家族団らんの中で作ってくれたものでした。今はあまり作られることはありませんが、久しぶりに食べてみると、その優しい甘さに心が温まる思いがします。

料理のポイントは、分量をしっかりと守ることです。麴を入れすぎると、食べたときがらくくなります。また水の量が多いと、煮詰めるのに時間を要してしまいます。煮詰めるときは、焦げやすいので手を離さず、最後は弱火にするようにしましょう。

出来上がったあめは、冷凍保存し、いつでも食べることができます。

このあめを懐かしく思う方も多いと思います。ぜひ昔を思い出し、試してみてください。





こどもみらい館の予定表  
(5月・6月の日程)

- 5月18日(水) 10:30～ あそびの広場
- 20日(金) 10:00～ タッチケア
- 25日(水) 10:30～ かんがるー広場
- 26日(木) 10:30～ ほのほの講座
- 27日(金) 10:30～ 親子リトミック
- 6月1日(水) 10:30～ おはなし広場
- 2日(木) 10:30～ 子育て講座
- 4日(土) 10:30～ ブックスタート
- 8日(水) 10:30～ あそびの広場

**親子リトミック** 講師は、声楽家の小松伸子先生。親子で音楽に触れて楽しめます。  
**5月27日(金) 10:30～**  
 こどもみらい館

episode

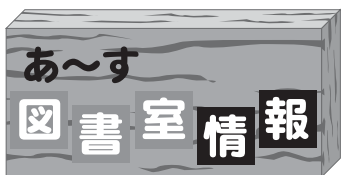
子育て応援  
 談  
 kosodate  
 ouendan

子どもも大事な一員  
 「子どもと一緒に農作業！」

私の家は農家。牛も飼っているから秋は「杭掛け」もしなければならない。農繁期は家族総出だ。子どもも春は種まきから田植え、秋は稲刈りと農作業に連れていった。大人にとっては“仕事”だが、子どもにとっては遊び場かつ家族と一緒にいられる喜びの時間。大人のすることに興味を持ち、同じことをしたいと思うのが子どもの素直な気持ちだろう。決して邪魔者扱いせず、丁寧に関わることが大切だと思う。

毎年同じことの繰り返しでも、昨年できなかったことが今年ではできたと自信を持ち、「来年も」と継続につながってゆく。成長に連れて、率先して農業を手伝ってくれる。もちろん報酬なんてない。農繁期が落ち着けば、わいわい食事をして終了。それが我が家の「当たり前」になっている。

●こどもみらい館 ☎72-3336  
 開館日/火曜日から土曜日 休館日/月曜日、日曜日、祝祭日  
 利用時間/8:30～12:00、13:00～17:00



今月の  
 おすすめ図書



**児童図書**  
**「はらぺこブブのおべんとう」**  
 白土あつこ/作・絵 ひさかたチャイルド  
 こぶたのブブは弁当屋のクマッチョさんから「お手伝いをしてくれたら、スペシャル弁当をごちそうするよ」と言われ、お手伝いすることに。



**児童図書**  
**「ぼくはモンスターのとこやさん」**  
 マシュー・マケリゴット/作・絵 野口絵美/訳 徳間書店  
 満月の真夜中、ぼくは吸血鬼といっしょに床屋さんへ。げろげろシャンプーや、でろでろトニックを出して、お客さんを迎える準備はオーケー。そこへやってきたのは…。



**一般図書**  
**「おとなごはんと一緒に作れる、9ヶ月からの離乳食」**  
 岡村淑子/著 河出書房新社

家族みんなが食べておいしいメニュー、赤ちゃんに合った食事にするためのひと手間など。赤ちゃんのいる家庭のごはん作りのアイデアとヒントを紹介する。



**一般図書**  
**「県庁おもてなし課」**  
 有川浩/著 角川書店

とある県庁に突如生まれた新部署「おもてなし課」。観光立県を目指すべく、若手職員の掛人は、地元出身の人気作家に観光大使就任を打診するのだが。

●開館時間 午前9時～午後6時(5月～10月)  
 ※土・日曜日は午前9時～午後5時まで  
 ●休館日 毎週月曜日・祝日  
 ●問合せ先 町民総合センターあ～す図書室 ☎72-3111

# ようこそ！ わたしたちの倶楽部に

スポーツ、音楽、芸術、史話、ボランティアなど町内には活動団体がたくさんあります。このコーナーでは、そんな皆さんの活動を紹介していきます。



ミュージカル

## めざまキッズ

- ◆代表／鈴木康太郎さん(手ノ子)
- ◆指導者／団員、保護者の皆さん  
※年に数回プロの音楽家から指導あり
- ◆団員／37名
- ◆練習日／月2回土曜日(19:00～21:00)

●めざまキッズへのお問い合わせは、町教育文化課まちづくり室（町民総合センター「あ〜す」内）まで☎72-3111

- ◆練習場所／町民総合センター「あ〜す」
- ◆団員募集対象／おおむね5歳以上から入団できます。年齢の上限はありません
- ◆クラブのピーアール  
「あ〜す」開館10周年記念のミュージカル発表をきっかけに設立されためざまキッズ。今年度、「あ〜す」は開館20周年を迎える中、めざまキッズも精力的に活動を展開中。秋には上演を予定しています。鈴木代表は、「歌や演技だけではなく、舞台裏で支える人たちの力があって、上演できることを子どもたちには忘れないで欲しい」と話します。



鈴木代表にとって  
ミュージカルとは…  
新しいことへの挑戦！

◀鈴木康太郎代表

## 連載 随想

# 町長の思ふ歩き

24

後藤 幸平

## 「赤いペンと黒いペン」

いま思うと随分思いついた行動に出たものだ。たしか小学校の四年生頃のこと、壊れた万年筆を持っていくと新品のものに取り替えてくれる店があるという話を信じた私は、お袋にもらった一本のペンをポケットに自転車で長井に向かったのである。ペンは金で出来ている。金は格別なものだ。新品との交換もあるはず。だが、文具店を何軒まわっても、そんなことは出来ない、と断られた。旨い話を簡単に信じるほうが悪い。しかしそのときは、世間の風の厳しさががっくりきた記憶がある。

文房具が好きで、理想の筆記具を求め続けている。ものを考えるとき鉛筆ほど創作力を駆り立ててくれるものはない。だが鉛筆ほど携帯に不便なものもない。芯はすぐ丸まる。書く作業であれば万年筆。風格が違ふ。ただ考え込んでいるうちにインクが乾くし太字も細字もというわけにはいかない。結局ボールペンに落ち着く。最近では多機能ペンが主流で四色＋シャープが標準だ。色が選べて消せるものまである。欲しいペン

は数限りなくあっても、机の引き出しを開ければもう二十四時間一生書き続けても大丈夫なぐらいの筆記具が詰まっている。マニアのような買方は止めることにしよう。

先日、部落長等会の総会があった。そこで激論が交わされた。町議会議員の定数について、十二名を減らすべきでないという意見と削減すべきとの意見ががっぷり四つに組んだ。議会とは、議員とは、国や地方のこれからと政治の役割などあらためて考えさせられた。議会が行政の牽制機能だけなら議員数は少なくとも済む。しかし、提案し立法にいたる機能まで議会に求めるとなると少なければ良いというものではない。

牽制は赤いペン、立法は黒いペンで書く。「黒いペンの力」が政治に求められると、『国会議員の仕事』林芳正・津村啓介著（中公新書）で興味深く読んだ。国会と町議会の役割はもろろん違う。しかしいま、地方にも自ら将来を描く力が求められる。そのために定数は如何にあるべき

なのだろうか。



7月9日㊥・10日㊦ 町民総合センター「あ～す」

## めざみの里カンタート

Mezami no sato cantat

日本屈指の音楽家による音楽イベント



作曲家 池辺晋一郎



合唱指揮者 栗山文昭



作詩家 村田さち子



ヴォイストレーナー 横尾佳子

町が全国に誇る音楽イベントの一つ「めざみの里カンタート」が7月9日・10日の2日間にかけて開かれます。

カンタート (cantat) とは、一定の期間に集中して、合唱のためのコンサート、講習会、講演会などをおこなうイベントのこと。講師陣は、村田さち子先生をはじめ日本の音楽界をリードする方々ばかり。作詩・作曲や音楽業界の話も聴けるほか、感動あふれるコンサートもあり、音楽にかかわっていない人でも楽しめるイベントです。町民の皆さんもぜひ体感してください。笑いと感動が待っています！

## 町民限定コース!!

町民の方は、1講座1,000円で興味のあるプログラムに気軽に参加することができます。

## 主なプログラム

## ①「我が心のアルカディア」を詩う前に

課題曲「我が心のアルカディア」への想いや情景など、村田さち子先生よりメッセージをお届けします。

〈講師：村田さち子 9日㊥ 13:15～13:45〉

## ②発声レッスン・ヴォイストレーニング

横尾佳子先生によるヴォイストレーニング講座です。すぐに合唱に生かせる実践的な発声法を学びます。

〈講師：横尾佳子 9日㊥ 13:45～14:30ほか〉

## ③指揮法・合唱レッスン

栗山文昭先生による、指揮法を中心とした合唱表現についての特別レッスンです。

〈講師：栗山文昭 9日㊥ 14:40～16:10〉

## ④作曲のうち幕

作曲者が曲に込める「仕掛け」・「カラクリ」とは？池辺晋一郎先生によるユーモアたっぷりの音楽トークショーで、秘められた作曲のうち幕をお届けします。

〈講師：池辺晋一郎 9日㊥ 16:20～17:20〉

そのほか、10日㊦13時からの合唱コンクール、栗友会歌芝居「ごん座」演奏会などが楽しめます。詳細は、町ホームページをご覧ください。お問い合わせください。

## 開館20周年記念イベント盛りだくさん「あ～す」年間事業

“音楽からのまちづくり”の拠点施設、町民総合センター「あ～す」は、多くの町民の皆さんに親しまれ、おかげさまで開館20周年の節目を迎えることができました。今年度は、平年のイベントのほか、今年度限定の記念イベントを企画し、皆さんのご来場をお待ちしています。

6月19日㊦	時間未定	フェット・ドラ・ミュージック(会場:どんでん平ゆり園)	10月16日㊦	13:30～	飯豊町芸能発表会
6月25日㊥	14:00～	四季の歌“夏うた”を歌う集い	10月29日㊥	14:00～	四季の歌“秋うた”を歌う集い
7月9日㊥	13:00～	めざみの里カンタート(初日)	11月19日㊥	9:30～	めざみの里音楽祭
7月10日㊦	9:30～	めざみの里カンタート(最終日)	11月19日㊥	13:30～	開館20周年記念式典・音楽団体合同演奏会
8月18日㊦	午後	西六郷少年少女合唱団演奏会	12月3日㊥	14:00～	四季の歌“冬うた”を歌う集い
9月3日㊥	10:00～	いいで“めざみの里”まつり	3月2日㊦	未定	NHKラジオ第一公開番組「真打ち競演」
9月4日㊦	午前	ひなたおさむ先生ミュージックワークショップ	3月20日㊦	14:30～	山形交響楽団と地域住民コンサート
9月18日㊦	午後	橘川高校・橘川中学校・飯豊中学校吹奏楽部合同演奏会			

※開催時間・内容は変更になる場合があります。広報などでお知らせする事前の告知をご確認の上、ご来場ください。

●申込・問合せ先／町民総合センター「あ～す」TEL72-3111

**飯豊町役場**

電話 0238-72-2111  
FAX 72-3827  
ホームページ www.town.iide.yamagata.jp  
Eメール iide-info@town.iide.yamagata.jp



「あ～す」	☎72-3111	社会福祉協議会	☎72-3353	東部地区公民館	☎74-2447
町健康福祉課	☎86-2233	ひめさゆり荘	☎74-2011	西部地区公民館	☎75-2111
介護老人保健施設	☎86-2117	スポーツセンター	☎72-3086	中津川地区公民館	☎77-2020
国民健康保険診療所	☎72-2300	中部地区公民館	☎72-2126	飯豊駐在所	☎72-2245
附属中津川診療所	☎77-2330	白樺地区公民館	☎72-2242	中津川駐在所	☎77-2110

**育児休業を取るお父さんに  
奨励金が支給されます**

県内の事務所・事業所に勤務する男性従業員が育児休業を取得した場合、奨励金を支給します。県外の事務所・事業所に勤務する方も対象です。ただし、公務員の身分を有する場合は、支給対象から除かれます。

◆金額

- 休業期間1カ月未満／5万円
- 休業期間1カ月以上／10万円

◆要件

- ①勤務日で算定し、連続して7日以上育児休業を取得
- ②所属する事務所・事業所において、県が指定するワーク・ライフ・バランスなどに関するセミナーを受講していること

- ◆対象期間／平成24年3月31日まで
- ◆申込方法／指定の様式に必要書類を添えて下記まで申し込み
- ◆申込・問合せ先／山形県子育て推進部子育て支援課 ☎023-630-2668

**ヒップホップダンス  
体験レッスンのお知らせ**

- ◆会場／生涯学習プラザ（長井市）
- ◆期日／5月24日(火)
- ◆参加料／500円（会場使用料）
- ◆時間
- ①園児／18:15～19:00
- ②小学生／19:00～20:00
- ③中高生～大人／20:00～21:00
- ◆持ち物／内履き、運動できる服装、タオルなど
- ◆申込方法／直接会場へお越しください
- ◆問合せ先  
長井ヒップホップダンスサークル  
横山 ☎090-2363-2829

**置賜広域病院組合  
職員採用試験のお知らせ**

◆募集職種・人員

- ①看護師／約30名、②助産師／若干名、③行政職(上級)／若干名

◆採用予定年月日／平成24年4月1日

◆受験資格

- ①・②昭和42年4月2日以降に生まれた者で、それぞれの職種の資格を有する者、又は平成24年6月30日までに該当免許を取得する見込みの者
- ③○昭和47年4月2日から平成2年4月1日までに生まれた者  
○平成2年4月2日以降に生まれた者で、大学(短大を除く)を卒業した者または平成24年3月31日までに卒業見込みの者

- ◆一次試験／6月26日(日)
- ◆試験会場／川西町中央公民館
- ◆受付期間／5月16日(月)～6月10日(金)
- ◆試験案内の配布／飯豊町役場総務企画課、置賜広域病院組合事務局総務企画課などで配布しています。また、置賜広域病院組合のホームページからもダウンロードできます

- ◆申込・問合せ先  
置賜広域病院組合事務局総務企画課  
☎0238-46-5000 内線2125

**地上デジタル放送への  
準備はできましたか**

現在、画面右上に「アナログ」の文字が表示されているテレビをご覧の方は、7月までにテレビを買い替えるなど地上デジタル放送への準備をしなければ、テレビ放送を見ることができなくなってしまいます。アナログテレビ放送は7月24日正午で終了します。

- ◆問合せ先／デジサポ山形  
☎023-606-1100

**第23回いいで黒べこ祭り  
前売り券を販売します**

最高級の飯豊産米沢牛を準備し、皆さんのお越しをお待ちしています。

- ◆期日／7月3日(日) 雨天決行
- ◆場所／どんでん平ゆり園  
※入口は正面北側の専用ゲート
- ◆イベント開催時間／11:00～14:00
- ◆イベント内容／飯豊町こくわワイン・どぶろくの振る舞い、豪華景品大抽選会など
- ◆前売り券
- ファミリーセット(4名分)12,000円  
※牛肉・野菜・飲み物セット
- チケット販売日／5月16日(月)以降
- チケット購入先／JA山形おきたま飯豊支店、畜産団体の役員の方、飯豊町観光協会、ゆり園、役場産業振興課
- ◆問合せ先／役場産業振興課農業振興室 ☎72-2111内線262、263

**子育て支援者養成講座  
参加者大募集**

- ◆期日／6月11日(土)・18日(日)・25日(土)・7月2日(土)・16日(土) 全5日間
- ◆会場／町民総合センター「あ～す」
- ◆内容／子どもの健康や世話の方法など子育てに関する講座。全11講座  
内容の詳細や時間などは、下記までお問い合わせください
- ◆受講料／無料（ただし、テキスト代として2,500円別途必要）
- ◆申込締切／5月26日(休)まで
- ◆申込方法／下記まで電話で申し込み
- ◆その他／無料託児あり（定員5名）  
希望する方は事前に申し込み必要
- ◆問合せ先  
NPO法人ほっと ☎72-3530  
役場教育文化課子育て支援室  
☎72-2111内線167



こせきのまど  
**戸籍の窓**

(4月届け出分)

ご結婚おめでとうございます

住所	氏名
(小 白 川 井 上 洋 平さん 長 井 市 落 合 恵 さん)	
( 椿 アキバ アタルさん 山 形 市 武 田 奈津子さん)	

お誕生おめでとうございます

住所	氏名	ご両親
中 田 林 叶 真くん	(賢太郎 知美)	
萩生 山 口 穂 乃ちゃん	(剛 美)	
中 渡 部 央 汰くん	(清 隆 葉)	

心からおくやみ申し上げます

住所	氏名	年齢
萩生 中ノ舘 富 永 則 夫さん		70
椿 辻 石 原 久 夫さん		64
萩生 町西 八 島 エ イさん		100
高峰 東向 伊 藤 守 さん		84
小白川 北上野 田 中 學 さん		87
添川 (ひだり) 伊 藤 誘 さん		92
添川 (ひだり) 岡 田 む つさん		93
高峰 西向 伊 藤 春 雄さん		72
高峰 中通 高 橋 ツ ギさん		90

※この欄に掲載を望まない場合は届出の際にお申し出てください。

**人の動き**

4月分 ( ) 内は対前月比			
世帯数	2,367 (-2)	転入	19
人	男 3,931 (-19)	転出	40
	女 4,177 (-9)	出生	3
口計	8,108 (-28)	死亡	10

**東日本大震災**

**義援金の受付について**

町では、役場、町民総合センター「あ〜す」、健康福祉センターにて、被災地へ送る義援金を受け付けています。引き続き皆様のご支援をよろしくお願ひします。

◆問合せ先／町健康福祉課福祉室  
☎86-2233

**人権なんでも相談所  
開設のお知らせ**

「人権なんでも相談所」を開設します。相談は無料で秘密は厳守します。

- ◆日時／6月3日(金) 13:30~15:30
- ◆場所／町民総合センター「あ〜す」
- ◆相談員／人権擁護委員・法務局職員
- ◆相談内容／夫婦・家族間のいざこざ、配偶者などからの暴力、老人・子どもの虐待、遺産相続、いじめ問題など、どんなことでも相談に応じます
- ◆町の人権擁護委員／齋藤久子(松原)、手塚久美子(萩生)、安部宗右衛門(小白川)、小川幸生(椿)
- ◆その他／法務局では、上記にかかわらず随時相談を受付けています
- ◆問合せ先  
法務局米沢支局 ☎0238-22-2148  
全国共通人権相談ダイヤル  
☎0570-003-110

**白鷹町のどか村  
チャリティー陶芸教室**

チャリティー陶芸教室を開催します。収益の全額を東日本大震災の義援金として寄付します。事前に予約の上、参加ください。

- ◆期日／6月5日(日)
- ◆場所／のどか村(白鷹町)内の「深山工房 つち団子」
- ◆内容・料金・時間  
陶芸家6名の指導による陶芸教室  
◇手びねり／1,300円(所要2時間)  
午前の部9:30~、午後の部13:30~  
◇電動ロクロ／3,000円(所要1時間)  
9:00~16:00
- ◆申込・問合せ先  
えぼし窯(鈴木) ☎0238-45-3126  
つち団子(金田) ☎85-1807

**住宅リフォーム支援事業の  
お知らせ**

住宅のリフォーム工事に対し、町から補助金を交付します。

- ◆対象／自らが居住する持家住宅
- 集合賃貸住宅、店舗、事業所は対象外。ただし、店舗併用住宅の住宅部分は該当します
- 部分補強工事、バリアフリー化工事、省エネ化工事、山形県産木材を使用した工事のうち、町が指定する要件を満たす工事を行う必要があります。
- ◆対象工事の例／耐震壁・断熱材の設置、屋根の軽量化、ペレットストーブの設置、床の段差解消など
- ◆要件
- 町内に住所を有すること
- 県内に本社または支店を有する建設業者と契約し、工事を施工すること
- 平成24年2月末日までに実績報告書を提出できること
- 申請者および生計を共にする家族に町税などの滞納がないこと
- 同じ年度に住宅に関する補助金などを受領していないこと
- 申請前に工事を着工していないこと
- ◆補助の内容
- 町内業者が施工  
補助率20% 最大40万円
- 町外業者が施工  
補助率15% 最大30万円
- ※補助は予算の範囲内で行われ、先着順となります
- ◆申込方法／指定の様式に必要書類を添えて下記まで申し込み
- ◆申込期間／平成24年1月31日(火)まで
- ◆申込・問合せ先／役場地域整備課建設室 ☎72-2111内線157

◇連休中は晴天に恵まれ、過ごしやすい春の日となりました。しかし、一抹のさみしさを感じたのは、春の一大イベントである全国白川ダム湖畔マラソン大会の取材がなかったからか。

町は、東日本大震災発生後、大会中止を早くに決定。中止は、昭和58年の大会開始から初めてのことで、毎年参加してくださる多くの方が楽しみにし、そして地元は、町内外からの参加者でにぎわうのを待ちわびていました。

この逆境を跳ね返し、来年はきっと盛大に行われると信じて止みません。

(横山)



文化財は、郷土の歴史、民俗、信仰、自然を物語る町の宝。継承し守り続けている人たちがいるから輝く価値がある。



写真/板碑は、本長寺の正門に奉られている。写真は板碑の裏面

## Treasures in Iide Town

8

selection

### 本長寺の板碑

平成17年度町指定有形文化財（考古資料）指定

#### Interview

#### 守り続ける人たち



本長寺 住職

飯田 修司さん  
(椿)

#### 牛馬を災いから守ると信仰を集める

もともとこの板碑は、長井市九野本にある川の橋げたの一部でした。橋を通ると多くの馬が足をけがしたことから、村人が調べたところ、橋げたの石にお釈迦様を示す「バク」という梵字が刻まれているのに気づきました。そこで九野本の檀家の人たちによって、その石を本長寺に奉納したということです。明治または慶応のころのことと伝え聞いています。

寺に奉られてからも、家畜の牛馬に災いがないようにと地元の人たちの信仰を集め、今も毎年、お彼岸とお盆には供養しております。

昭和55年ころには、板碑の地中に宝物があるのではないかと、檀家の中で話題となり、掘り起こしたこともありました。結果としては、何も出てきませんでした。

#### 解説

##### 本長寺の板碑

本長寺は、天明年間に越後からの入百姓によって、当時演寺であった大法院を引継ぐかたちで創建された。

板碑は中世を代表する石造供養塔で、本町では22基が確認されている。いずれも作成年代は不明である。椿・萩生方面の平場に多く分布し、中津川地区からは発見されていない。

椿の本長寺門前に建立されている板碑は、高さ209cm、幅87cmで、バク（釈迦を意味する梵字）種子が雄渾（ゆうぐん）な薬研彫で刻まれている。本町最大の貴重な板碑である。裏面に「南無妙法蓮華経祈處」と刻まれている。両面に刻まれている板碑は珍しい。

平成17年10月に町の有形文化財（考古資料）に指定された。

※種子（しゅじ）：密教で、仏尊を象徴する呪文  
※薬研彫（やげんまり）：V字型に彫ること